

成長戦略⑥ BNCT事業の進捗／社会価値の創出

■ BNCT（ホウ素中性子捕捉療法）事業

「**がんで大切な人を亡くさない社会をつくりたい**」というグループのビジョンのもと、治療分野における新たな技術の開発で、がん治療に新たな光をもたらしていくことを目的とする。

＜BNCTの特徴と当社グループ：(株)CICS（当社連結子会社）の取り組み＞

- ・照射する中性子線量は人体にほぼ影響がなく身体への負担が少ない。また、原則一回の照射で治療が完了。
- ・がん細胞のみ選択的に攻撃する仕組み。事前にホウ素の集積度を測定できるPET検査とのシナジーが強い。
- ・病院に設置可能な機器を国立がん研究センターと共同開発し、パートナー企業とともに治験を実施中。

今後のスケジュール想定	2023.3	2024.3	2025.3	2026.3
治験 (悪性黒色腫、血管肉腫) ※第II相試験は血管肉腫のみ	第II相(有効性)試験実施		審査	2026年頃を目途に薬事承認を目指す
適応拡大 (頭頸部癌)	国立がん研究センターとの共同研究(予定) 将来的には脳腫瘍・乳癌・肺癌・食道癌も想定			
特定臨床研究 (乳癌)	外部医療機関等と連携 2025年頃に完了を想定			
機器販売／治療 (医療機器としての販売は薬事承認後)	販路：パートナー企業と検討(海外も有望) ハイメディック事業との連携：治療による付加価値提供を検討 ※機器販売先医療機関にて			



現在行っている治験に加えて、乳癌や肺癌、食道癌などへも適用が拡大されれば影響は大きい（切除しない治療でQOLを向上）

■（参考）上記以外の当社グループメディカル事業の共同研究・寄附講座

- ・東京大学医学部附属病院：「コンピュータ画像診断学／予防医学講座」
- ・京都大学医学部附属病院：生活習慣病の発症病理の解明、発症予測の研究
- ・名古屋大学医学部附属病院：MRI装置を用いた血流と血管病変に関する研究
- ・名古屋市立大学：医療におけるホスピタリティの研究
- ・慶應義塾大学病院：PET/CT画像を基にした骨変化に関する疫学研究
- ・東北大学医学系研究科：AIを活用したがん・生活習慣病の発症モデル構築
- ・東京慈恵会医科大学附属柏病院：WT1樹状細胞ワクチンの研究
- ・大阪大学：アルファ線によるがんの放射線治療